

2019年度「仙台市文化プログラム」実施候補事業の決定について

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、仙台市及び仙台市市民文化事業団が市内に拠点を置く団体または個人と共催で実施する2019年度「仙台市文化プログラム」について、審査結果を報告します。

1. 実施候補事業

令和元年5月19日に開催した最終審査委員会において、以下のとおり2019年度「仙台市文化プログラム」実施候補事業とすることが決定しました。

- 「SHIRO Atelier & Studioーともにつくる芸術劇場」(テーマB)
特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン
*2018年度から継続
- 「荒浜のめぐみキッチン」(テーマA・C)
荒浜のめぐみキッチン
- 「AIR KAIKON 2019」(テーマA・C)
AIR KAIKON 実行委員会
- 「日英 age50+がつくる舞台～炎:Honō:Flames」(テーマA・C)
演劇企画集団 LondonPANDA

*事業名は申請時のものを記載しています。

【テーマ】

- A. 震災や復興を主題にした文化プログラム
- B. 障害のある人たちの文化芸術活動を支援・推進する文化プログラム
- C. 地域の文化芸術資源を活用した文化プログラム

【備考】

最終審査委員会では、各企画提案について企画内容の一部を選定すること（部分選定）や、一定の事項を満たすことを条件に選定すること（条件付き選定）を前提として、採択された事業もありました。それらの審査内容を受けて企画提案者と事務局が事業実施に向けて、事業内容や予算などを協議します。その後、両者が共催協定を締結し、事業の実施が正式に決定されます。

2. 審査の概況

審査委員会では、募集要項に記載した審査の視点に基づき、実施候補事業 4 件（継続事業 1 件を含む）を選定しました。

審査の中では、企画提案者が仙台の文化活動や地域社会の状況に対して、具体的な課題意識を有し、イベント実施だけでなく、場づくりや環境整備、担い手のネットワーク形成などに取り組む事業内容が高く評価されました。そのような事業の中でも、複数年継続実施することで波及効果が広く期待できるものが、実施候補事業として選ばれました。

3. これまでの経過

（1）企画提案の募集

平成 31 年 4 月 8 日から 4 月 15 日までの期間で企画提案を募集し、19 件の応募がありました。（昨年度からの継続事業 1 件を含む）

内訳：テーマ A. 震災や復興を主題にした文化プログラム：10 件

テーマ B. 障害のある人たちの文化芸術活動を支援・推進する文化プログラム：5 件

テーマ C. 地域の文化芸術資源を活用した文化プログラム：12 件

*テーマは複数選択可

（参考）

2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」の企画提案を募集します

http://www.bunka.city.sendai.jp/topics/index_bunpro2019.html

（2）審査委員

青木ユカリ（特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター 常務理事）

坂口 大洋（独立行政法人国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校 教授）

佐藤 李青（公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京）

伊藤 勝也（仙台市文化観光局文化スポーツ部 部長）

境 洋文（公益財団法人仙台市市民文化事業団 副理事長）

（3）一次審査委員会

平成 31 年 4 月 22 日、日立システムズホール仙台にて一次審査委員会を書類審査により実施し、最終

審査委員会に進む企画提案 7 件（新規事業 6 件、継続事業 1 件）を選定しました。

（４）最終審査委員会

令和元年 5 月 19 日、日立システムズホール仙台にて最終審査委員会をプレゼンテーション形式により実施し、企画提案 7 件から 2019 年度実施候補事業 4 件を決定しました。

（５）審査基準

一次審査委員会および最終審査委員会では下記 6 項目の審査基準を基に、企画書及びプレゼンテーション内容を審査しました。

① 実現可能性

実施のための適切な企画や実施体制となっているか

② テーマとの整合性

市の『文化プログラム』として実施するのにふさわしいか、また、新規性があるか

③ 文化事業としての手法・プロセス

有効な事業プロセスや人選などが提案されているか

④ 文化事業としての質

文化的に質の高い成果が新たに期待できるか

⑤ 人材育成・ネットワーク形成

文化の担い手育成・ネットワーク形成に寄与するか

⑥ 波及効果

実施後、広く社会的な影響が中長期的・持続的に期待できるか